

線量数値の改ざん・被ばく隠し問題 への提案



線量計数値の改ざん・被ばく隠しへの提案

福島原子力発電所の事故対応をされていた方々の放射線被ばく量を管理する線量計に、鉛の板をかぶせて、被ばく量を見かけ上、下げていたという事件は、被ばく積算線量が高いと、継続して仕事がもらえなくなる、といった雇用の問題が発端だったようです。確かに、一定量を被ばくした作業者は、その作業から離れて、それ以上の被ばくが起らないように配慮されます。

事故現場では、線量の高いところでの作業も必要です。作業員一人あたりの被ばく線量が決められていることから、ある一定の作業を行うためには、以下の簡単な計算から、必要とする人員が計算できることとなります。

$$\text{【作業時間】} \times \text{【被ばく推定線量】} / \text{【最大被ばく線量率】} = \text{【必要となる人員】}$$

作業員の被ばく量をできるだけ下げるには、作業時間を少しでも減らすための作業手順を明確化することと、高い放射能を有する物質を、作業領域からできるだけ離れた位置移動することが必要になります。あるいは、今回は、線量計を鉛で覆うという誤りをしていますが、鉛の板で、強い線源部分を覆う事が必要なのです。

また、線量計の音が「作業員を不安にする」ということでしたので、正しい線量を計測することを目的として、音の出ない検出器を用いることも可能と考えます。

いずれにしても、人間の体は、放射線を浴びてしまったら、回復するには時間がかかるので、誤った考えをしないように、管理監督者への徹底が望まれます。

2012年7月30日 瀧口義浩